

○本江 朝美 (昭和大学医療短期大学看護学科)

河井 敏幸 (飯能クリニック)

長戸 康和 (東海大学医学部形態学)

田島 知郎 (東海大学医学部外科学)

【目的】今日癌医療の目指すものとして、抗腫瘍効果や生存期間の延長に加えて、Quality of Life (QOL) の維持・向上が強調されるようになった。とくに根治不可能な進行・末期癌患者に対して、さまざまな肉体的・精神的な苦痛を取り除き、その人らしく満足感をもった生き方ができるよう考慮することが重要な課題となっている。そこで、癌末期患者に対し、抗腫瘍効果が報告されている CPL (Cyclic polylactate 環状ポリ乳酸、製造元：(株)主命堂、販売元：東海教育産業(株)) の飲用を試み、QOL の推移を検討した。

【対象と方法】日常生活がほぼ自立し、化学療法を受けていない外科的治療不可能な末期癌患者 2 例を対象に、CPL 飲用中の QOL を「がん薬物療法における QOL 評価表」(J.Jpn.Soc.Cancer.Ther.28 (8) :1140 ~1144, 1193.) を用いて調査し、その変化を分析した。

【成績】CPL を飲用した末期癌患者における QOL について、以下のことが明らかとなった。

症例 1 : 57 歳、女性、直腸癌、肺転移

①CPL 飲用後、腫瘍マーカーが漸増し CT 上も腫瘍の拡大が認められるにも関わらず、日常生活行動などの活動性や、体の調子や食欲などの身体状況は維持し、良く眠れ、心の支えがあるなど精神・心理状況や自己の全体的な評価については、むしろ改善した。②QOL 評価は、体重減少と一致し低下が見られた。

症例 2 : 47 歳、男性、S 状結腸癌、肺転移

①抗癌剤中止し CPL 飲用後、腫瘍マーカーの漸増にも関わらず、微熱、食欲不振、全身倦怠感などの自覚症状の軽減とともに、活発な身体活動を伴う仕事や趣味が可能となった。②死の直前まで CPL を飲用し、食事や排泄、コミュニケーションが可能で苦痛の訴えはなかった。

【結論】末期癌患者における CPL 飲用は、腫瘍マーカーの悪化に関わらず、QOL の維持・改善効果が示唆された。